①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
	・太田さん（ビデオに出てくる青年海外協力隊員）はすごいと思った。私にはできそうにないかなと思った。 ・わたしも、あんなのんびりとした村に暮らしてみたい。	
①２時限 ②「途上国について知る」 ③途上国への関心を高める	JOCA 講師派遣をクラス単位（40 人）で実施 途上国とはどのような場所であるかを、生活や文化、価値観、人生観などの多様性から学ぶ。	JOCA 教材「地球生活体験学習」 （下記教材からひとつを実施） ・ミィードゥ島の水 ・ルーマニアの子どもたち ・セネガルのファールさんの暮らし ・ウムヨム村の豚の一生
<児童・生徒の反応> 生徒のコメントから	【セネガルのファールさんの暮らし】 ・国によって考えが全くちがうということに気づきました。 ・平等という概念を持っているから、人にやさしくできるのか、と思います。 ・私も近藤さん（教材上の登場人物）と同じようにお金をあげることができなかったと思います。 【ウムヨム村の豚の一生】 ・いままで実感できなかった「人間は多くの命の上に成り立っているんだな」ということを感じた。 ・命をモノと扱わず、感謝の気持ちを持って豚の命を預かっているのだという村の人が尊敬できる。 【ミィードゥ島の水】 ・何気なく流している水が、大切なんだということに改めて気づきました。 ・雨が降ると大喜びをすると聞いて、すごく納得できた。	
①３時限 ②「青年海外協力隊員の体験談」 ③青年海外協力隊への理解、関心を高める	元青年海外協力隊員による出前講座をクラス単位（40 人）で実施 派遣先のこと、支援業務の内容、失敗談などを、自らの体験をもとに、語っていただく。	元青年海外協力隊員 （JICA より派遣） ・マラウイでのエイズ対策隊員（中国での緊急援助隊調整員） ・ホンジュラスでの青少年活動隊員 ・ドミニカ共和国での村落開発普及員隊員 ・フィジーでの環境教育隊員
<児童・生徒の反応> 生徒のコメントから	・（支援は）その国のやりかたでなくてはならないというのは、少しつらいことと感じた。 ・援助をするときには、リーダーになってはいけない、自分は一歩ひかなくてはいけない、という言葉が印象的でした。 ・日本のように、保健の授業でＡＩＤＳについて勉強しないということが不思議に思った。 ・自分を高めるために，支援活動をしに外国に行くことがすごいと思った。 ・国際関係学に興味のある私には大変参考になった。 ・ドミニカは（メジャー選手も多くいて）豊かな場所だと思っていた。 ・環境問題って、（温暖化だけでなく）、いろいろなことがあることを知りました。	
①４時限 ②国際協力と自分 ③講師派遣・出前講座（２・３時限）の振り返り 自分の将来像の中で、奉仕と国際協力を捉えさせる。	６クラス（240 人）を集め実施 (1) 振り返りとして、各クラスの代表が、出前講座等（２・３時間目）の内容概略とコメントを発表する。学年内での共通理解を深める。 (2) 出前講座等で各クラスを担当した講師を紹介し、コメントを述べてもらう (3) 学年全体の代表生徒による、講師派遣・出前講座全体のコメント発表と、お礼の言葉。 (4) 来年度、理数教育支援でドミニカ共和国に青年海外協力隊員として派遣される方と、業務調整員としてシリアに派遣される方の紹介をし、コメントを述べてもらう。	２・３時限目の内容・コメントのメモ

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
<児童・生徒の反応> 生徒のコメント・事後アンケートから	・今日一日で、今まで知らなかったことを、多く知りました。 ・世界には自分たちの知らない場所があり、自分たちと違う生活をしている人がいて、牧野さん（講師）のような活動をしていることをはじめて具体的に知ることできました。 ・途上国で支援活動をすることは重要だと思いますが、自分にはできないように思えた。 ・絶対に参加したい。 アンケートから ・今回、途上国に関心が持てた人65％（以前からあった12％） ・今回、青年海外協力隊に関心が持てた人68％（以前からあった6％） ・青年海外協力隊にできれば参加したい人49％（うち絶対参加3％）	

〔3〕詳細説明

≪全体≫

・一連の授業は、生徒へのインパクトを強めるため、２～４時限は 11 月 28 日に集中実施し、そのイントロダクションである１時限目は直前の 11 月 26 日に実施した。

・東京都設定教科「奉仕」は、平成 19 年度より、すべての都立学校の児童生徒が３年間で１単位相当の履修を義務付けられている教科で、「高校生が社会に貢献するための学習を行う時間」とされている。１単位 35 時間は、奉仕体験 17 時間と事前・事後指導 18 時間で構成されている。本校では「総合的な学習の時間」の代替として実施し、奉仕体験は環境保全活動体験と地域清掃をおこなっている。今回取り上げた４時間の授業実践は、「さまざまな奉仕活動を知る」の事後指導の一環として取り上げたものである。

≪１時限≫

・今回実施した４時間の授業の中では、出前講座等のイントロダクション的に位置付けたが、この時間のみでも途上国と青年海外協力隊の活動に関する理解は得られる内容を持っている。

≪２・３時限≫

・生徒の眼前に実際に派遣され業務を遂行した人間を置き、リアルに途上国と国際協力について語っていただくことで、より深化した理解を得ることをねらった。

≪４時限≫

・２・３時限は、クラスにより取り上げた教材、派遣されていた地域や業務が異なる。よって振り返りでは、代表者による内容概説、コメントにより、学年全体での共有化をねらった。

・全体を通じて、７名の元青年海外協力隊員と派遣予定者を生徒の前に登場させた。それにより、多様な地域と業務があるという認識をねらった。また、派遣予定者を紹介したねらいは、１～３時限を通じて知り得たことが現在から将来にかけても継続的に展開しているという認識を得るためである。

〔4〕成果と課題

わが国の国際協力について、マスコミはもちろんのこと、さまざまな場面で紹介されている。しかしながら、見る側に国際協力に基本的な知識と関心がない場合、何ら意味を持たない。そこで学校教育では、国際協力について積極的に取り上げ、基本的な知識を学ぶ機会を作り、関心の喚起を促す指導が求められる。各教科・科目あるいは総合的な学習の時間等で取り上げることは可能であるが、東京都設定教科［奉仕］は、国際協力について正面から取り上げることができる科目である。その際、一般的な知識でなく、実際に派遣され業務を遂行した人間を置き、リアルに途上国と国際協力について語っていただくことで、より深化した理解を得ることができたことが、生徒のコメントなどからうかがい知ることができた。深化した理解という

点では、教師海外研修を通じ現地で活動の様子を見聞きし、授業者自身がとおり一遍の知識でなく「深化した理解」ができたことも、大きな成功要因であったと思われる。

講師派遣・出前講座については来年度以降も継続して実施するが、その際、今年度作成したDVDを活用することもできる。来年度以降、この科目の担当者が変更になっても、また他校で実施することになっても、授業の成果は維持できる。数年経過した時点で、リニューアルをすることになろうが、その時までに、後継の担当者の研修が必要になると思われる。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

［太平洋に開かれた海の歴史］増田　義郎、集英社新書、2004

〔6〕使用教材（授業で使用したワークシートなど）

自主作成DVDは、フィジーで撮影した総計15時間分の素材ビデオクリップと5000枚の静止画データを、4チャプター22分で構成した動画と静止画に編集、民族音楽のBGMと解説用テロップを付けたものである。主として中・高校生向けを意識して編集したが、小学生にもわかる内容に改変することは可能である。

フィジっちゃお！

Fiji Islands

牧　孝信
東京都葛飾区立飯塚小学校

●担当教科：全教科
●実践教科：総合的な学習の時間
●時 間 数：13時間
●対象生徒：小学校5年生
●対象人数：30名

〔1〕授業実践のテーマ・目的

「フィジーを知って、自分の国を見つめ直す」

・フィジーがどんな国なのかを理解し、他の国の文化に関心をもつ。
・フィジーとの共通点・相違点から、自分の国の文化について理解を深める。
・自分の国や他の国を、様々な視点で見る力をもつ。

〔2〕授業の構成

<教科名：総合的な学習の時間>

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時限（事前授業） ②フィジーとは ③フィジーについて興味をもち、2時限目以降の意欲を高める。	①フィジーの国がどこにあるか考える。 ②フィジーについて知りたいことを出し合い、まとめる。	世界地図 ワークシート
<児童・生徒の反応>	フィジーという国の名前を知っている児童は半分以上いたが、位置を正確に答えられたのは一人もいなかった。フィジーについて知りたいことは、食べ物や遊び、学校生活についてが多く出てきた。この授業後、図書室で調べたり、夏休み中に家で調べたりした児童が数人いた。	
①2時限 ②国旗がもつ意味 ③フィジーの国旗から、日本やその他の国の国旗について込められた意味を考える。	①ケニアの国旗を見る。ケニアの国旗に込められた意味について知る。 ②フィジーの国旗をみる。フィジーの国旗から分かることを考え、意見を出しあう。 ③フィジーの国旗に込められた意味について知る。	ケニアの国旗 フィジーの国旗 ワークシート
<児童・生徒の反応>	今まで国旗に込められた意味を考えたことがない児童にとって、意味があること自体に驚きがあったようだった。フィジーの国旗の水色から、海を想像したり、木や鳥が多い、果物が豊富と考えたりした児童が多かった。昔、イギリスに統治されていたことや、数多くの意味があることにとても驚いていた。日本や好きな国の国旗についても考えを広げられた。	
①3時限 ②硬貨のもつ意味 ③フィジーの硬貨から、日本やその他の国の硬貨の絵がもつ意味について考える。	①フィジーの硬貨を見る。 ・1、5、10セントは各班に。 ・その他の硬貨は全体提示。 ②硬貨の絵を描く。 ③硬貨からわかることを考え、意見を出し合う。 ④フィジーの硬貨の絵がもつ意味について知る。	フィジーの硬貨 （1·2·5·10·50セント、1フィジードル） 日本の硬貨 （1·5·10·50·100·500円） ワークシート
<児童・生徒の反応>	全ての硬貨の裏にエリザベス女王の顔が描かれていたこともあり、10セント硬貨の絵はエリザベス女王の杖だと考えた児童が多かった。昔使われていた武器だと知ると、とても驚いていた。硬貨の絵がフィジーの文化と結びついていることがよくわかっていた。日本の硬貨の絵の5円玉の稲穂や10円玉の平等院鳳凰堂については、これまでの社会等の学習から「日本はお米がよくとれる」、「昔からの建物」だからという考え	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
	が出てきたが、500円玉の桐など、植物の絵がよく読み取れず、もっと調べたいと感じた児童が多かった。	
①4時限 ②学校生活 ③フィジーの小学生の手紙から分かることを考え、フィジーについて理解を深める。	①フィジーのレブカ小学校の写真を見る。 ②フィジーの小学生からの手紙からわかることを考える。 ③他の人の手紙を読み合う。	写真（パワーポイント） レブカ小学校4年生からの手紙（30名分） ワークシート
<児童・生徒の反応>	自分の名刺が遠く離れた相手に届いたこと、そして返事が来たことに児童はとても感激していた。他の子の手紙も進んで読み合っていた。絵から、好きな食べ物（バナナやココナッツ）やスポーツが読み取れたり、写真から制服を着ていることなどがわかったりした。しかし、英語の文章の読み取りに大変苦労していた。	
①5時限 ②伝統文化 ③フィジーの伝統文化セブセブから、日本の伝統文化について考える。	①ヤンゴナの根や、セブセブ（儀式）の準備をしている画像を見せる。 ②何をしているところか考える。 ③写真・DVDからセブセブについて知る。 ④セブセブを実際に体験する。 ⑤日本で、昔からあって、今も多くの人がしていることは何か考える。	写真・DVD （電子黒板にて掲示） ヤンゴナの根 タノア（容器） 水 カップ（ヤシの殻） ワークシート
<児童・生徒の反応>	私が資料を提示する度に、児童から「食べるのに使う」「薬に使う」「洗濯で使う」といった声が出た。セブセブをしている映像を見て、客人が来たときの歓迎の儀式で飲むものだと知ると、児童は非常に驚いていた。クラスの児童全員で円になって、本格的にセブセブを行った。ほとんどの子が恐る恐る飲んでいた。日本でも昔からあって、今も多くの人がしていることは何か考えたが、お茶を飲む以外、すぐにこれだというものが出なかった。改めて今もフィジーの人達に根付いているセブセブの凄さを感じていた。	
①6時限 ②食べ物 ③伝統料理ロボを通して、日本の料理について考える。	①フィジーで食べたものを写真で紹介する。 ②ロボ料理（伝統料理）ができるまでを見る。 ③自分が外国の人にどんな料理を食べさせたいか考える。（朝・昼・夜）	写真（パワーポイント） ワークシート
<児童・生徒の反応>	日本でほとんど見かけないダロやキャッサバを使った料理を興味深く見ていた。また、ロボ料理にも高い関心をもっていた。食べさせたい料理では、寿司や天ぷらといった和食が多いと予想していたが、そのようなことはなく、和食だけでなく、自分が好きな料理や、相手の人に合わせた料理を考えた児童が半分くらいいて、日本の料理の奥深さを感じる良い機会となった。	
①7時限 ②歌と踊り ③メケやイサレイを通して、日本の歌について考える。	①メケ（伝統ダンス）を見ながら、一緒に踊る。 ②イサレイ（別れの歌）を聞き、一緒に歌う。 （電子黒板に掲示） ③日本の歌で、皆で歌えて、外国から来た人たちに歌ってあげたい歌を考える。	写真・DVD ワークシート
<児童・生徒の反応>	メケの手の動きが速すぎて、児童は追いつかなかった。イサレイのような、別れの時に歌う歌は考えられなかったが、「世界にひとつだけの花」や「さんぽ」が良いのではないかという意見が出た。	
①8～9時限（3学期実施） ②フィジーのまとめ ③「フィジっちゃお！」で学んだことを振り返る。	①DVDを見る。 ②さらに調べてみたいことを調べる。 ③今の日本を紹介するテーマを考える。	DVD ワークシート
①10～13時限（3学期実施） ②日本紹介 ③現在の日本文化を見つめ直す。	①テーマごとに調べ、まとめる。 ②発表する。 ③感想をまとめる。	ワークシート 発表資料

〔3〕詳細説明

事前授業を除き、授業を行う際には、ブラシャツ（伝統衣装）とスル（腰巻）を身に付けていた。また、授業の最初の３分間で、簡単なフィジー語講座も行った。児童は「ブラ！」（こんにちは）や「ビナカ」（ありがとう）といった言葉をすぐに覚え、他の場面でも使っていた。

１時限目（事前授業）

まず、夏休みにフィジーに行くことを伝えた。「フィジー聞いたことがある。」という児童が多かった。しかし、フィジーの場所を世界地図（白地図）に記入させると、南アメリカ大陸やアフリカ大陸を指す児童が多く、オセアニアの方に記入したのが１名のみで、誰もフィジーの正確な位置を知らなかった。フィジーの正確な位置を教えた後、フィジーについて知りたいこと（質問してきてもらいたいこと）をまとめさせた。「好きな遊びは何か」「テレビゲームはするのか」「どんな食べ物が好きか」「学校は何時間あるのか」「給食はあるのか」「流行っている言葉は何か」など、５０を超える問いができた。子どもたちは、かなり関心が高まったようで、自分で本やインターネットで調べたり、給食の時の話題にしたりしていた。

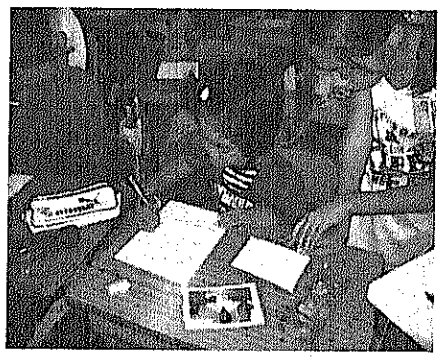
４時限目

１学期の終業式の日に、フィジーのレブカ小学校の児童にプレゼントする名刺を作った。それを現地で渡したところ、忙しい中、一人ひとりに手紙を書いてくれた。

レブカ小学校の写真を見せ、「皆にプレゼントがあります。」と言ってから、一人ひとりに手紙（裏には手紙を書いた児童がプレゼントした名刺を持っている写真）を手渡していった。その後、手紙からフィジーのことが読み取れることを伝えた。児童はまず、絵や写真から分かることを読み取り、その後、周りにききながら英語の文章にも取り組んでいった。

フィジーと自分の距離が縮まったと感じた子が多かった。

手紙を真剣に読みこんでいる児童



友だちの手紙を読んでいる児童

５時限目

学校公開日に行ったため、保護者も参加して授業が行われた。

「今日はフィジーの人達になくてはならないものについて紹介します。」と言って、児童にある植物の根を見せた。「何に使うのかな」ときくと、児童からは、「食べるのに使う」「薬に使う」という返事が返ってきた。

次にこの根（ヤンゴナという木の根）を粉にしたものを見せた。すると児童からは「薬として使う」という答えが多く返ってくるようになった。保護者の方の予想も同じようなものだった。そして、粉を水に溶いている映像を見ると「洗濯だ！」という答えが。いろいろ出てきたところでいよいよ正解の発表。フィジーで客人が来たときは歓迎の儀式（セブセブといいます）の時に飲む、飲み物（カバといいます）であることを伝える。

そしていよいよ実際にカバを飲む。泥水のような色なので、「これを飲むの～」という顔を児童はしている。客人の中では、男性の最年長者が飲むので、保護者の方（男性）にまずは飲んでもらった。

飲み方は、

①器（ココナッツの殻）を受け取る前に１回手を打つ。

②受け取って、「ＢＵＬＡ！」と言う。

③一気に飲み干す。

④器を返して、３回手を打つ。（周りの人も打つ）

というもの。保護者の方々は、一気に満杯を飲み干した。

いよいよ児童の番。おうちの人の許可が取れた児童は多め、それ以外は非常に少ない量のカバを飲んだ。ほとんどの児童が恐る恐る飲んでいた。おいしく飲んでいた児童、顔をしかめながら飲んでいた児童、飲みきれずお母さんに飲んでもらった児童、泣いてしまった児童など、いろいろといたが、全員経験することができた。（28人中、おいしかった５名、まずかった23名。）

セブセブの儀式は、古くから続いていて、今もフィジーの多くの人がしているものであることを伝えた。

セブセブの後、日本でも、昔から続いていて、今でも多くの人がしていることがないかみんなで考えた。しかし、みんながすぐにこれだと思いつくものがなく、お茶という意見が何とか出た。改めて今もフィジーの人達に根付いているセブセブのすごさを児童は感じていた。

〔4〕成果と課題

成果

ワークシートから、フィジーのことを学習しながら、児童は自分の国との共通点・相違点を見つけたり、自分の国にはどのようなものがあるか考えたりすることができていたことがわかる。また、他の自分の好きな国の国旗はどうなのか、硬貨はどうなのかといった国を見る新たな視点を獲得することもできていた。

改善点

日本のことも考える時に、こちらが出す問いが広すぎたために、なかなか考えが出てこない児童がいた。もっと、絞った（限定した）問いを出すことが必要だったと思う。また、今回開発教育やJICAの活動についてはあまり触れていない。６年の社会で青年海外協力隊のことを取り上げるので、その時に今回自分が感じたことや知ったことを伝えていきたい。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

①「ラッキープロ　No. 20　教材ビデオ１」羽生英雄（東京都立清和高等学校）編集、2008

②「セブセブ体験」山田勝之（足立区立第４中学校）編集、2008

③「民族と文化の十字路　フィジー」2008年７月31日、ＢＳフジ放送

④「国際理解にやくだつ世界の遊び　７　オセアニアの遊び」ポプラ社、1998

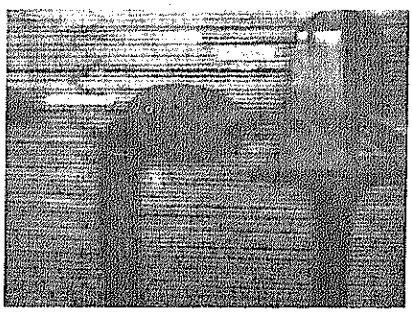
⑤「地球の歩き方　フィジー　2007～2008年版」ダイヤモンド・ビック社、2006

⑥「フィジーの魔法」飯田裕子　山口由美、千早書房、2007

⑦「フィジーの国旗販売」＜http://www.sarago.co.jp/nfhtm/fj.html＞

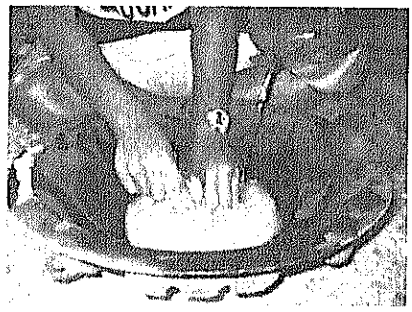
⑧硬貨の図柄＜http://www.union-net.or.jp/cu-cap/koukanozugara.htm＞

〔6〕使用教材



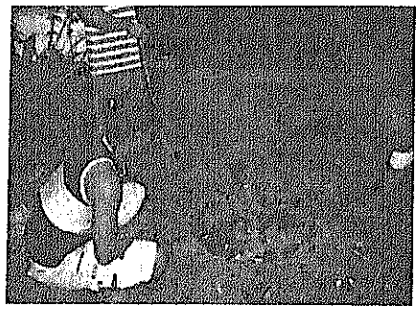
昔使われていた棍棒（3時限目）

ヤンゴナの根（5時限目）

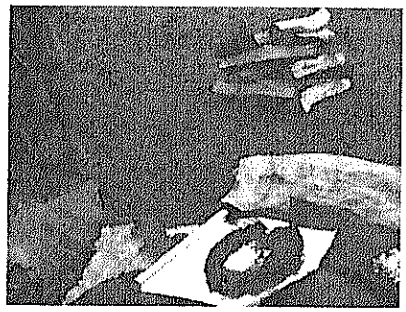


カバを作っている（5時限目）

ロボ作り①火起こし（6時限目）



ロボ作り②石焼き（6時限目）



ロボ作り③パルサミ（6時限目）

ロボ作り④葉重ね（6時限目）

ロボ作り⑤蒸し焼き中（6時限目）

ロボ作り⑥完成（6時限目）

【3時限目ワークシート】

フィジっちゃお！③

9/22

☆フィジーの子どもたちの手紙からフィジーについて知ろう！

・相手の名前

ソフィア

・手紙からわかること（文や絵から）

バナナ、マンゴー、ぶどうが好き？
四年生。　　あとリンゴ

・他の人の手紙からわかること

サッカーが好き？ムイック
リンゴバナナマンゴーが好き？←アカニシ
鳥が好き？←カミニール

・今日の学習感想や今日の学習からさらに調べてみたいこと

手紙の返しが来てうれしかったです。
みんな果物が大好きみたいです。札に名前が書いてあるなんてびっくりしました。
今日の学習からどんな勉強をしているかが知りたくなりました。

【6時限目　ワークシート】

フィジっちゃお！⑤

☆（ロボ料理）のことを知ろう！

○任・肉・葉っぱでつつんだものをむして食べる物。
○昼から作って、夜に出来る。

・自分が外国の人にどんな料理を食べさせてあげたいですか

朝…納豆ごはん…(理)くさっていてもおいしいということを伝えたいから。
昼…カレーライス(理)日本のカレーはこんなかんじというのを伝えたいから。
夜…オムライス(理)私が僅大好きで外国人はどう思うか知りたいから。

・その理由は

・今日の学習感想や今日の学習からさらに調べてみたいこと

本当に外国人が来て、とまるなら、食べさせてあげたいな。と思いました。反応が見てみたいです。

ロボ料理は昼から作り初めたのに、夜になって完成するのには、おどろいた。
日本にも、それくらい時間をかけて、作る料理はあるのか知りたい。

世界を知ろう！はじめの一歩 ～フィジーから世界に目を向けよう～

Fiji Islands

坂井 ゆりか
東京都葛飾区立小松南小学校

●担当教科：全教科
●実践教科：総合的な学習の時間
●時 間 数：12時間
●対象生徒：小学校3年生
●対象人数：24名

〔1〕授業実践のテーマ・目的

○ 授業のテーマ （題材名）

「世界を知ろう！はじめの一歩」 ～フィジーから世界に目を向けよう～

"世界には自分と違った生き方をしている人がいること、幸せに生きている人がいることを知ろう"

○ 目的 （ねらい）

◎フィジーのコインや国旗、映像などを通して、フィジーをはじめとした世界の国々の文化や様子に関心をもつ。（重要）

・フィジーと日本の子どもたちの「大切なもの」カードを通して価値観や文化の多様性を考える。

・フィジーの海の美しさを伝えるとともに、汚染されつつある現状を知り、自分にできることはないか考える。

・世界で活躍する人々の中に、日本人のボランティアである青年海外協力隊がいることを知る。

〔2〕授業の構成

<教科名：教科名：総合的な学習の時間>

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1限目（7月） ②どんな国を知っているかな。 ③知っている国を発表しながら世界について目を向けさせる。	1. 夏休みに担任がある国に行くことを伝え、どんな国に行くか想像をふくらませる。 2. 画用紙に知っている国を書き、発表する。 3. フィジーに行くことを伝え、フィジーの位置を世界地図から探す。 4. フィジーのイメージを発表する。	●画用紙 ●世界地図
<児童・生徒の反応>	・たくさんの国の名前を知っている児童と、あまり知らない児童の差があることが分かった。 ・フィジーと書いた児童は出てこなかったので、「最初に"フィ"がつく国に行くよ」とヒントを出すと、「フィリピン」「フィンランド」と出た後に、「フィジー」という子が出た。「フィジー」という国の名前を聞いたことがある子は24人中8人だった。	
①2限目（7月） ②「あなたの大切なものは何ですか?」 ③ツバルの子どもの大切なものから自分の大切なものについて考える。	1. ツバルについて説明する。（フィジーと近いこと、位置など。） 2.「あなたのたいせつなものはなんですか?」の読み聞かせをする。 3.「大切なもの」を一つに絞り、画用紙に書かせる。	●世界地図 ●絵本「あなたのたいせつなものはなんですか?」※1 ●画用紙
<児童・生徒の反応>	・ツバルについては温暖化という言葉とともにテレビなどで紹介されているためか、知っている児童、関心のある児童が多かった。 ・ツバルの海で遊んでいる子どもの写真をみて「いいなー」との声があがった。透明な海、白い砂浜に出会ったことがないこと、憧れが強いことが分かった。	
①3限目（7月）	1. NGOのオイスカ（OISCA）のビデオをみる。	●ビデオ※3

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
②フィジーってどんな国？ ③フィジーの映像を見せてさらに知りたいこと、実際に見てみたいものなどを考えさせる。	2. ワークシートに気付いたこと、もっと知りたいこと、不思議に思ったことを記入する。	●ワークシート
<児童・生徒の反応>	・とても興味深く視聴し、ワークシートへの書き込みもたくさんできていた。 ・フィジーの様子が映像を通してはっきり分かったようだ。 ・担任がフィジーに行って調べてほしいこと、持って帰ってほしいものを作文に書いてもらった。☆1	
①4限目（学校公開） ②コインからフィジーを知ろう ③コインに書かれているフィジーのものを通してフィジーへの興味関心を高める。	1. フィジーから持ち帰った服やものを見せ、関心を高める。 2. フィジーのかごバックの中に入っているものを予想させる。 3. お土産として一人一枚コインをプレゼントする。 4. グループでフィジーのコインに関するクイズに挑戦する。	●スル（腰巻） ●ブラシャツ（伝統衣装） ●コイン（24 枚以上） ●タノア（容器） ●イリ（うちわ） ●フィジーのかごバック ●パワーポイント ●プロジェクタ ●スクリーン
<児童・生徒の反応>	・フィジーの服（スル・ブラシャツ）を着て教室に登場すると、いつもとは違うワクワクした気持ちが湧き上がってきていることを感じた。 ・かごバックからどんなコインが出てくるかドキドキしながら引き、互いに見せ合っていた。 ・クイズ形式にしたことで全員が参加し、楽しみながらフィジーについて知ることができた。	
①5限目（学校公開） ②フィジーの子どもたちの大切なもの ③フィジーの子どもたちの大切なものカードから、価値観の違いや多様性を考える。	1. フィジーの子どもたちに世界に一枚ずつしかない絵を描いてもらったことを話す。 2. 一人一枚ずつカードを引く。 3. 何について描いてあるカードか考える。 4. 似ている絵同士で集まり、仲間づくりをする。 5. グループごとにどんな絵が描かれてあるかテレビに映しながら発表する。 6. 自分たちが 7 月に描いた大切なものと似ているところ、違うところを考える。	●フィジーの子どもたちに描いてもらった大切なもののカード（30 枚）☆2 ●実物投影機 ●フィジーの DVD（羽生先生作成）
<児童・生徒の反応>	・実際にフィジーの子どもに描いてもらったカードということもあり、高い興味を示していた。 ・似ているカードの仲間づくりをしたことによって授業に動きが出て、生き生きと参加する学習になった。 ・自分の大切なものと似ているところ、違うところから考えを深めていくことで、価値観の多様性を考えるきっかけ作りをすることができた。 ・一方で深く考えることは難しかったようで、問いかけの仕方や、考える内容の適時性について検討する必要性を感じた。	
①6限目 ②フィジーについて分かったことを整理しよう ③今までの学習で分かったこと、もっと知りたいことを一度整理し、今後の学習の見通しを立てる。	1. 教室に 4 つのテーマごとにコーナーを作り、フィジーについて分かったこと、もっと知りたいことなどを付箋に自由に記入させる。 2. 模造紙に貼り、分かったことや今後調べたいことを整理する。 3. 今後学習したいことを決める。	●大きめの付箋（4 色） ●4 つのコーナー☆3 ●模造紙
<児童・生徒の反応>	・4 つのコーナーを自由に選び、付箋に書く活動を取り入れたため、フィジーについて分かったことやもっと調べたいことをどんどん記入することができた。	
①7・8限目 ②フィジーについて調べよう ③インターネットや図書資料を活用してフィジーについて知りたいことを調べる。	1. フィジーについて調べたいことを決める。 2. インターネットや図書資料を活用して情報を収集する。	

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
<児童・生徒の反応>	・自分でテーマを決めて調べることができた。 ・3年生ということもあり、インターネットで調べる際は、教師が個別に支援していった。	
①9~11限目 ②フィジーガイドブックを作ろう ③フィジーについて調べたことをオリジナルガイドブックにしてまとめる。	1. 色々なガイドブックを紹介し、書き方のイメージをふくらませる。 2. 自分で調べたことを中心としたガイドブックを作成する。 3. 友達同士で読み合い、感想を付箋に書いて貼る。	●ガイドブック☆4 ●「きみにもできる国際交流 ⑬フィジー・トンガ・サモア」※2 ●付箋
<児童・生徒の反応>	・それぞれの興味関心に基づいてガイドブックにまとめることができた。 ・フィジーについて知識を与えられるのではなく、自分で調べ、まとめていくことで主体的な学習ができた。	
①12限目 ②フィジーで学んだことを自分の生活に活かそう ③今まで学習したことを振り返り、自分たちの生活につなげられることを考える。	1. フィジーの自然、食べ物、スポーツ、青年海外協力隊のインタビューなどがまとめられたDVDを観る。 2. 今まで学習したことを振り返り、自分たちの生活につなげられることを考える。 3. 今後できそうな、身近なボランティアや国際交流につなげる。	●DVD（羽生先生作成）
<児童・生徒の反応>	・断片的に学習してきたことを映像で再度観ることによって、つながりを意識できたようだ。 ・特にフィジーの食べ物や青年海外協力隊の太田隊員のインタビューの映像では集中して観ていた。 ・フィジーで学習したことを毎年行っている地域の清掃活動や、外国の方との交流につなげることで学習の意味を見出せたようだ。	

〔3〕詳細説明

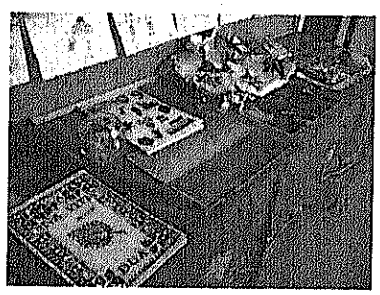
3限目

【FIJIについて知りたいこと、担任に聞いてきてほしいこと】

（3年2組24名・複数回答あり・7月に実施）

画用紙に自由にフィジーについての質問を書いてもらった。

☆1　以下がまとめたものである。食べ物や動物、生活、遊びに関心をもっていることが分かった。



廊下のフィジーコーナ

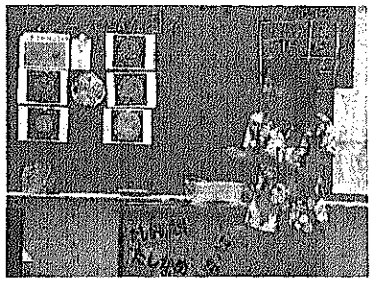
どんな食べ物を食べていますか（9）・どんな動物がいますか（5）・どんな生活をしていますか（3）学校でどんな遊びをしますか（3）・フィジーは楽しいですか（2）・人口は何人ですか（2）・どんなものがありますか・自然はありますか・海はきれいですか・チャイムはどんな音ですか・どんな服を着ていますか・どんな名前がありますか・　フィジー語の言い方・勉強は何をしているか・どんな魚がいますか・どんな島ですか・いつも暑いのですか・電話ありますか・運動会やりますか・クラスは何人？・ヤシのジュースはどんな味？・学校は楽しい？

4限目　（学校公開日）

【コインからフィジーを知ろう】～コインに書かれているものを通してフィジーへの興味関心を高める～

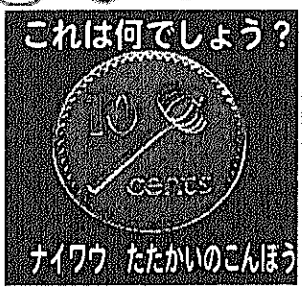
・班対抗のクイズ大会形式で進めた。

・実物のコインを一人一枚ずつ渡し、コインの絵にあるイリ（うちわ）やセブセブのタノア、カバの粉をさわったり、においをかいだりと、五感を使いながら授業を進めていった。



廊下のフィジーコーナ

パワーポイントで作成したフィジーのコインクイズ

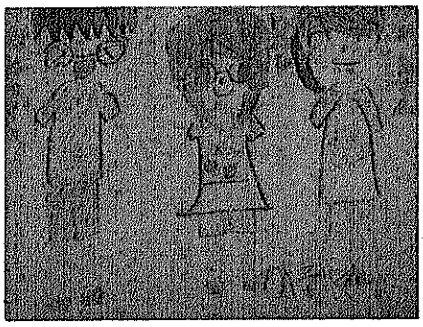


5限目　（学校公開日）

「あなたの大切なものは何ですか？」（小松南小学校　3年2組24名・複数回答あり・7月に実施）

・ツバルの子どもの大切なものを読み聞かせた後に、自分の大切なものについて画用紙に書いてもらった。家族や友達などがとても多かった。以下がまとめたものである。

家族（11）・友達（5）・地球（4）・日本（4）・自然（3）・DS（2）・家（2）・みんなの心（1）・いのち（1）



一番多かったのは家族

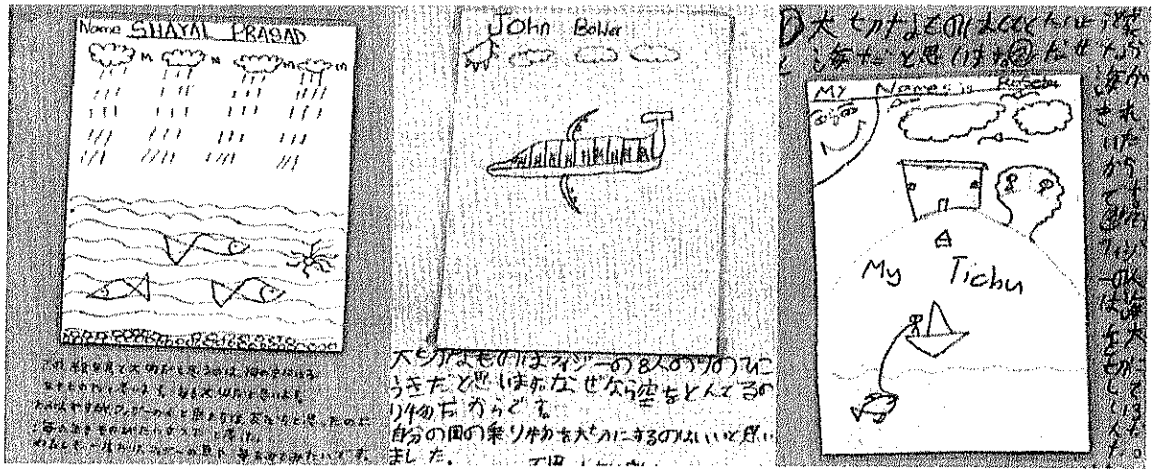
家を描く子もいた

地球と描く子が4人

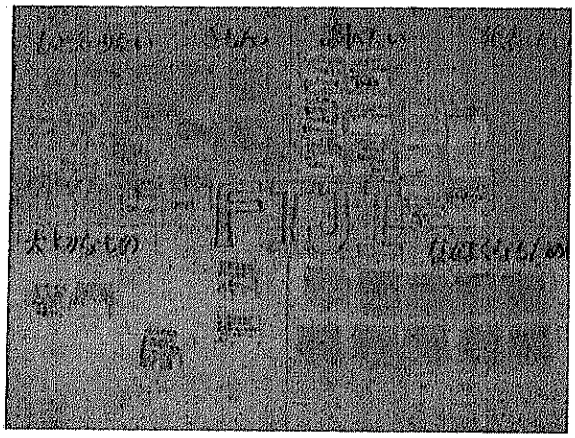
「あなたの大切なものは何ですか？」（フィジーレブカ小学校　Class4　30人）

・フィジーの子どもたちにも大切なものを描いてもらった。あまり考えたことがなかったようで、描き始めるまでに時間がかかったが、青年海外協力隊の太田隊員の助言もあり、真剣に描き上げてくれた。

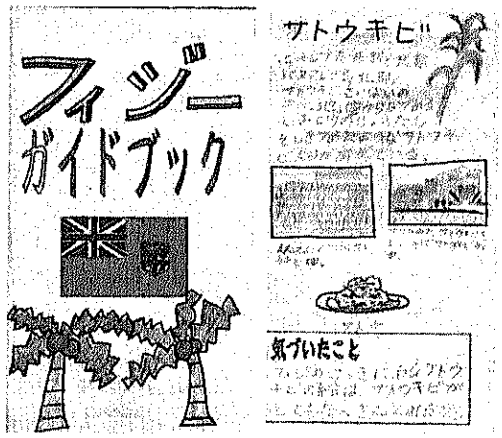
・このカードをもとに、今回の実践のメインとなるフィジーの子どもたちと自分たちの大切なものを比べる学習を計画した。様々な価値観があることを感じ取ってもらいたいという思いをもって実践した。



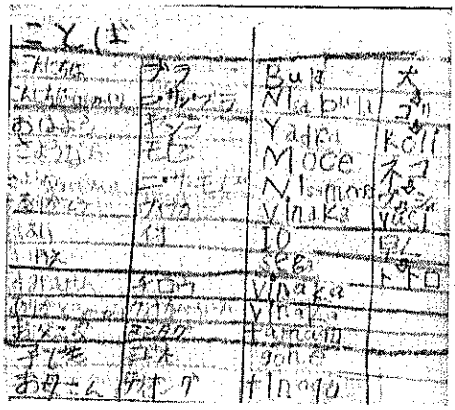
☆2 「フィジーの子どもたちの大切なもの」 どんなものが描かれているか想像して画用紙に記入させた。

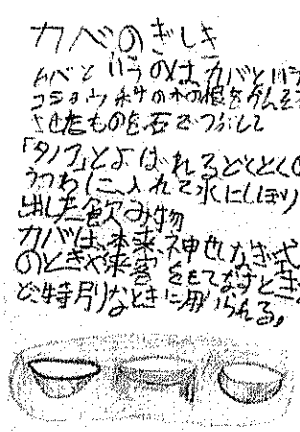


6限目 ☆3 4つのコーナー



9～11限目 ☆4 ガイドブック作り





〔4〕成果と課題

【成果】

◎担任がフィジーに行ったことをきっかけに、フィジーを通して海外に興味をもつ児童が増えた。

◎ほとんどの児童が、海外を意識したことがなかったが、今回の授業を通して家庭でも海外のことが話題に挙がるようになった。

◎たくさんの授業アイディアが浮かんだが、3年生の実態を踏まえ、“自分とは違う国の生活を知ること・

興味をもつこと”に学習内容を絞り、焦点化して実践することができた。

◎隣のクラスでも実践をしたり、学校公開で保護者や他の教員に参観してもらったりできた。開発教育・国際理解教育を広げていく上で意義があった。

◎実物、映像、実際の触れあいを通して伝えた授業は児童の心に残るものとなった。

【課題】

▽欲張らず、学年の適時性を考えてより絞って学習を組み立てることが必要だった。

▽どのように今回の学習をまとめるかについては、思うような答えが出なかった。学習のまとめ方についてはさらなる検討が必要だと感じた。

▽他学年への実践も行いたかったが、やりきれないまま１月となってしまった。６年生の社会科などで、青年海外協力隊の活躍について実践していきたいと考えている。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

●「あなたのたいせつなものはなんですか？…カンボジアより」 山本敏晴／写真・文、小学館、2005年７月

●「教室から地球へ―開発教育・国際理解教育虎の巻　～人が育ち、クラスが育ち、社会が育つ～」開発教育・国際理解教育アクションプラン研究会／編集　独立行政法人国際協力機構中部国際センター、2006年８月25日

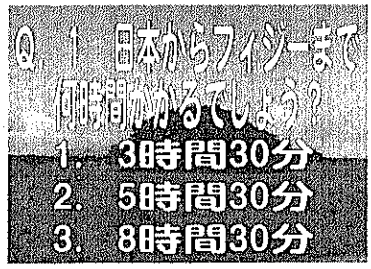
〔6〕使用教材（授業で使用したワークシートなど）

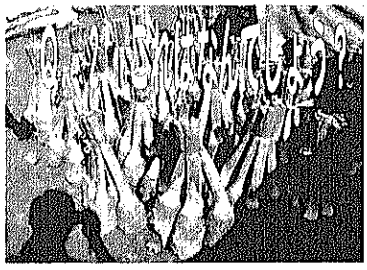
※１「地球温暖化、しずみゆく楽園ツバル　あなたのたいせつなものはなんですか？」山本敏晴／写真・文、小学館、2008年１月

※２「きみにもできる国際交流⑬フィジー・トンガ・サモア」橋本和也／監修・偕成社、2000年３月

※３　ビデオ―「子供の森」計画親善大使赤井英和のフィジー植林記　ＯＩＳＣＡ、2002年製作

●パワーポイント（一部抜粋）

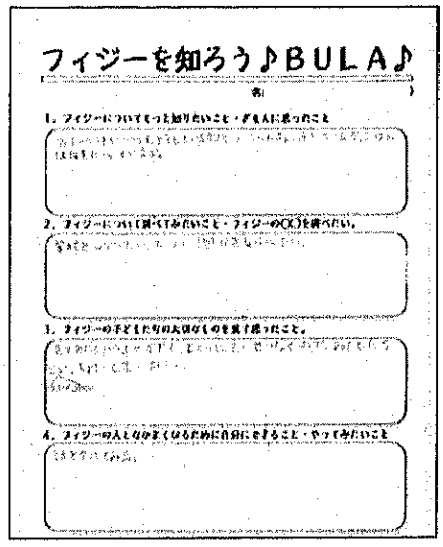




ダロイモ

カバの儀式

●ワークシート



南国の楽園とも呼ばれる“フィジー”の魅力を知ろう♪そしてフィジーに潜む問題に迫り、日本人の活躍を垣間見よう！

Fiji Islands

冨田 好恵
東京都トキワ松学園中学校高等学校

●担当教科：英語
●実践教科：道徳またはホームルーム
●時 間 数：１時間×５クラス＝５時間
●対象生徒：中学２年生
●対象人数：約30人×５クラス（＝約150人／学年）

〔1〕授業実践のテーマ・目的

中学２年生を対象に１時間（×５クラス）しか確保出来なかった為、テーマを絞って分かり易く楽しい授業を実践することがねらいだった。テーマは以下の２つ

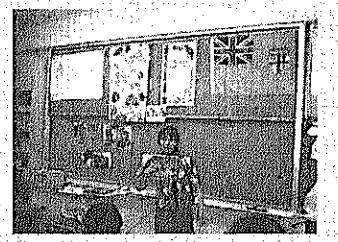
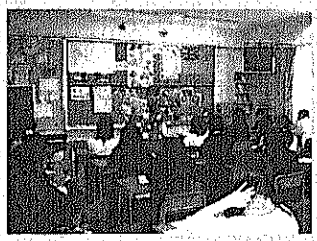
1．南国の楽園とも呼ばれる“フィジー”の魅力を知ろう♪
2．フィジーに潜む問題に迫り、日本人の活躍を垣間見よう！

フィジーという国がどこにあって、どんな人達がどんな風に生活しているのか。出来るだけ沢山の映像、写真、小道具を利用して私の見てきたままの魅力あるフィジーについて伝え、少しでもフィジーという国を身近に感じて貰おうと試みた。また、そんな美しいフィジーも実は発展途上国。「教師海外研修」として参加したからこそ垣間見ることの出来た「環境や教育においてフィジーが抱える問題」について取り上げてみた。そしてこれらの問題を少しでも解決しようと、フィジーでは「多くの日本人が活躍している」ことを知ることで、更にフィジーを身近に感じて貰えるよう努めた。最後に「JICA」についても話をした。皆がやる気さえあれば、青年海外協力隊やシニア海外ボランティアなどの活動を通じ、世界のあらゆる国々で「国際協力」出来ることを伝えた。今すぐピンと来なくとも、今回の授業が、未来の何処かで「何かのきっかけ」と重なり、生徒達の役に立ってくれたら嬉しい。これが何よりも一番の目的である、と言える。つまり、「日本人の生き方」のひとつとして「国際協力」を捕らえるなど、今回の授業が「国際協力」の架け橋になってくれることを切に願っている。

〔2〕授業の構成

＜教科名：道徳またはホームルーム＞

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時限 ②南国の楽園とも呼ばれる“フィジー”の魅力を知ろう♪ そしてフィジーに潜む問題に迫り、日本人の活躍を垣間見よう！ ③テーマを絞って分かり易く楽しい授業を実践すること。	ブラシャツ（伝統衣装）とスル（腰巻）を身にまとい、バックミュージックにフィジーの曲（イサレイやBULAソング）を流し、臨場感を出しながら、「BULA～♪」で登場！多くのビジュアル教材を使って授業を展開した。 ＜レブカ小学校の生徒達＞	写真・説明用キーワード用紙・DVD・音楽・ハンドアウト・その他 ※参照：〔6〕使用教材（授業で使用したワークシートなど）

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
<児童・生徒の反応>  <授業風景①>  <授業風景②> <授業風景③> <黒板の様子①> <黒板の様子②>	前半は魅力的なフィジーの紹介だったので、生徒の興味・関心を容易に引きつけられ、楽しく学ぶことが出来たと思う。後半は極端に興味がある生徒と、殆ど興味がない生徒に分かれたようにも感じたが、刺激を受けた生徒も多くいた様子。青年海外協力隊の太田幸子さんのインタビューDVDを見て、彼女の活動について「かっこいい！やってみたい！」という声も上がっていた。フィジーの子供達の幸せそうな笑顔に惹きつけられたこと、また「小さなことは気にしない」というセンガナレンガ精神の明るくて温かくてとっても人懐こいフィジー人に心打たれたことなど、沢山の写真を見て生徒達は自分達の生活との違いから多くのことを感じ、考えたようである。 <以下、生徒のアンケートのコメントを一部抜粋> ・沢山の資料や写真や地図があって、とても楽しく分かりやすい授業だった。フィジーの人々の生活や文化などが具体的に分かる内容で、フィジーという国に興味を持ち、もっと色んなことが知りたくなった。 ・挨拶が「こんにちは」「こんばんは」など全て「ブラ」で挨拶出来るのがフレンドリー感いっぱいで楽しそうだった。 ・インド系の人が沢山いるのにびっくりした。 ・フィジーの村で歓迎の儀式として泥水みたいなのを飲むのにびっくりした。 ・フィジー人の陽気で優しい性格や温かい歌や踊りが心に残った。あとは子供達の写真が頭を離れない！あとはキレイな海をなくして欲しくない。 ・フィジー人は温かそうだけど、平気で海にゴミを捨てるのは良くない。 ・フィジーの環境問題に一番関心を持った。 ・フィジーは海も綺麗だし、環境も良いと思っていたのに、観光客によってゴミが増えたり、ホテルを建てる為に木を切ることがあると知って可哀想。 ・観光客によるゴミ問題で珊瑚が危ないことなど、環境汚染が心に残った。 ・綺麗な国なのに綺麗なのは表だけで、裏にはとても悲しい状態になっている川や町があったので、良いところもあれば悪いところもあるのだと思った。 ・フィジーはあんなに海が綺麗なのに、陰にはあんなにゴミの山があるなんて驚いた。国際協力については、私のバレエの先生が来年の1月から青年海外協力隊としてパプアニューギニアに行くので、関心を持った。 ・青年海外協力隊にとても興味を持ったので機会があったらやりたい！！ ・興味があったので青年海外協力隊とJICAについても知れて良かった。 ・このような授業は私達も世界を知れるのでとても嬉しい。 （以下、省略）	

〔3〕詳細説明

フィジーの歴史にも触れるべく「どれがフィジー人でしょう？」クイズからスタート！数枚の写真（インド系フィジー人、中国系フィジー人、ロトマ人など）を使って生徒達に考えさせた。インド系フィジー人の写真を見て、インド人と答える生徒が殆ど、もちろんフィジー人と答える生徒はいなかった。なかでも「タイ人」という声もあり面白かった。実は「どの写真に写っている人達もフィジー人なんだよ」という答えに対して生徒達は目を丸くしていた。地図で場所を確認した後、国旗を利用してインド系フィジー人がどういう経緯でフィジーに多く留まっているのか、を説明。「イギリスの植民地」や「プランテーション農業」という言葉が少し難しいなぁ、という顔をしていた生徒もいたが、「自然と共に暮らしてきた南太平洋諸国の

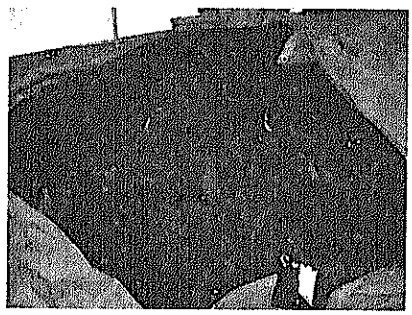
先住民達には、厳しい労働が馴染まなかったみたい」という説明に妙に納得していた。

「イサ・レイ」を一部のクラスで歌った。フィジーの魅力は、「生まれながらにして歌や踊りが大好きなフィジー人」の「歌声」を聞いたり、「メケと呼ばれる踊り」を見たり、ということがあちらこちらで出来ることも大きいよ、と感じたままを伝え、更にビデオを見て魅力に迫った。フォトランゲージの後、「珊瑚礁の楽園　フィジー」のＤＶＤを見て、フィジーの文化(カバの儀式など)や生活について詳しく学んだ。フィジーの魅力を大いに感じた後は、フィジーに潜む問題に迫った。ひどく汚れた海や川の写真を見て、生徒達はかなり驚いたようだった。問題を解決するべくコンポスト導入を始めた青年海外協力隊の矢尾さん、またマングローブ植林や珊瑚の増殖をしているオイスカの人達の活動について取り上げた。また、最後に青年海外協力隊の太田さんを紹介し、フィジーで活躍する日本人が一人ではない、ということを伝えた。太田さんのインタビューのＤＶＤは現地フィジーでのインタビューだった上、生徒達に語りかける部分もあったので、興味・関心を持った生徒も多かった。説明用キーワード用紙を利用して、難しい言葉には解説をつけながら「日本人にとっての国際協力」について考えてみた。

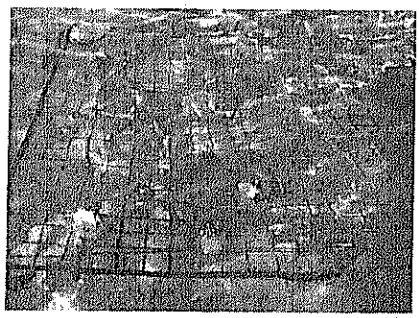
＜使用した写真の一部＞

＜フィジー人＞

＜川のゴミ＞

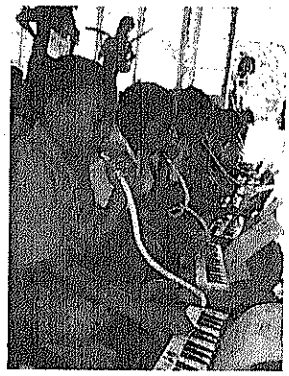


＜コンポスト（肥料）＞



＜珊瑚の増殖＞

＜マングローブの植林＞



＜レブカ小学校の生徒達＞

〔4〕成果と課題

今回の授業は、生徒達がフィジーについて知ることが出来る良いきっかけになったと思う。授業数を沢山確保出来なかった為、多少焦点がぼやけてしまった部分もあったと感じ反省もしているが、生徒達の興味・関心がそれぞれ違ったり、クラスごとに出てくる疑問や意見も異なったりして面白かった。例えば、「何故フィジーの子供達は一人一台のピアニカがないのに、こんなに笑顔なの？」とか「何故ゴミがこんなに溢れているの？」とか「何故こんなに幸せそうな国で援助が必要なの？」などの意見もあった。

フィジーで働く日本人の活躍を写真やＤＶＤで垣間見ることで「国際協力について多少触れられれば良い」と思っていたが、生徒達から出てくる意見をばねに「発展途上国であるフィジーの現状」を知り、「国

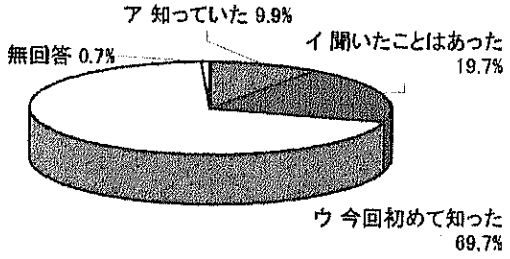
際協力とは何か」を考える授業まで発展したクラスもあった。私達日本人の幸せ＝彼等の幸せ、という式は成り立たない、フィジーの人達のニーズに基づく自立を目指した援助が大切だ、と感じた生徒もいたように思う。

全体としては、青年海外協力隊などのボランティア活動また、発展途上国や国際協力について「今回興味を持った」と答える生徒がいる一方で、「あまり興味がない」と答える生徒もいたことから、今回の授業が意味あるものだったと感じると共に意識の薄さも感じざるを得なかった。

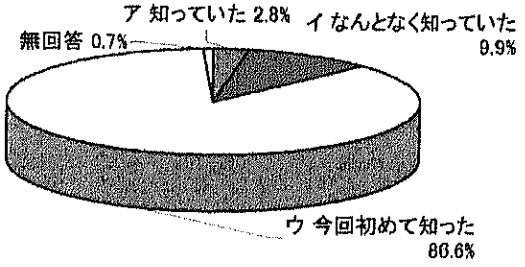
今後の課題として、海外で活躍する日本人についてもっと身近に感じられる授業を展開する等、学校教育の中に国際理解の要因を散りばめつつ、教育を進めることが大切だと感じる。たとえば、「実際に青年海外協力隊として活躍した人達」に、学校という教育現場で体験談を話して頂く機会を多く設ける。試みることで、全員でなくとも多くの子供達の意識や興味が格段に変わり、それが学ぶ意欲にも繋がって行くだろう。近頃は勉強をする目的や意義が分からず嫌々ながら机に向かう生徒も多いが、そういう生徒が英語学習の必要性を感じるかもしれない。また多くの教員が意識を高める為に「教師海外研修」のような機会を大いに利用したい。学校は「得た知識を生徒達に還元していくシステム作り」をする必要があると思う。どのような形であっても教員が日々の業務に明け暮れるのではなく、人脈、様々なネットワークを大切にし、刺激ある環境に身を置くことで生徒達への影響度が大きく変わるはずである。

英語教員として言うなれば、英語教育の原点はやはり、経験値ではないか。英語教員に求められる素質は何か、と聞かれれば英語力や指導力がまず当然のごとく求められるが、それと同じくらい大切なものがあると思う。目で見、肌で感じた経験やそれに伴う知識は、本で読んだり、人づてに聞いたりしたこととは格段に異なる、と信じてやまない。同じ英語教育を受けるなら国際理解により近い形で授業展開されることが望ましい。中学２年生くらいだと、まだ将来の夢について真剣に考えることもないかもしれないが、海外に興味を持つ生徒が非常に多い事実を考えると、海外で働く日本人の体験談を聞くなどの「見聞き体験」は記憶にとどまりやすいのではないかと思う。「今回のような授業をまたやって欲しい」という生徒達からの意見が多かったことからも、時間、年齢と共に「海外に行きたいという気持ち」から「海外で働きたいという気持ち」に変わって行くこともあるのではないか。生徒達が自分達の将来の位置付けを決定する時、例え別の道を選んだとしても、国際協力という道が選択枠のひとつになっているといないでは、大きく異なる。時間を掛けながらも、国際協力に関する情報を多く散りばめ、それを生徒達が身近に感じられる教育が大切にされるべきだろう。１月末、高校３年生対象に「国際協力のあり方」というテーマで４時間の授業を実施予定。また別の角度から生徒と共に議論し、考えてみたい。

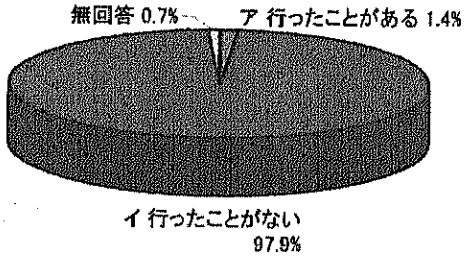
① フィジーという国名について



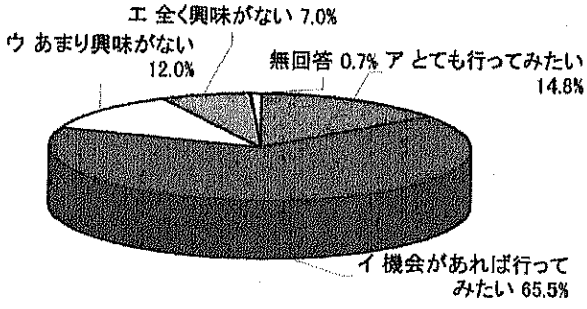
② フィジーの場所について



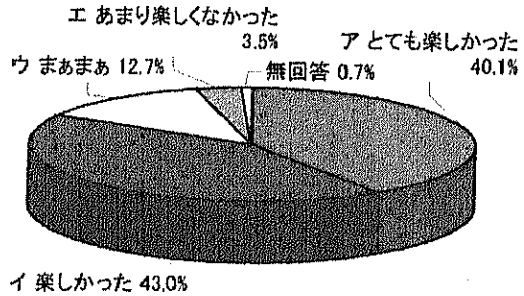
③ フィジーについて(今までに)



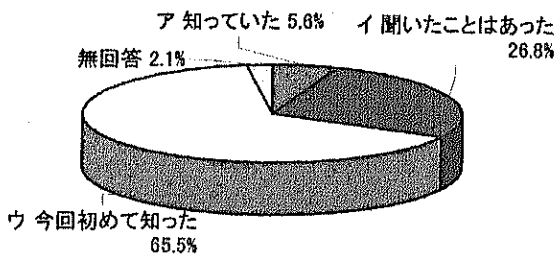
④ フィジーについて(これから)



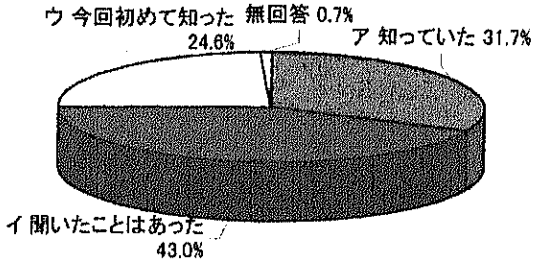
⑤ 授業について



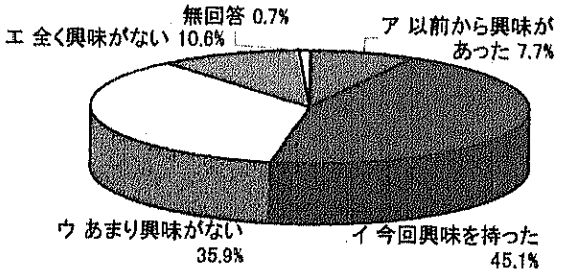
⑥ JICAについて



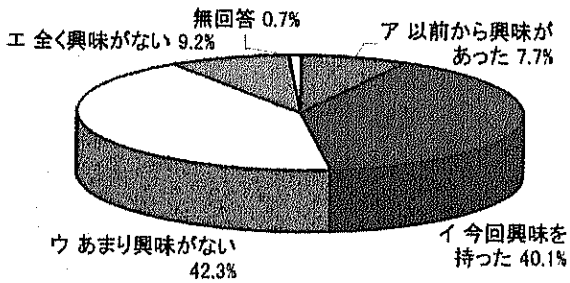
⑦ 青年海外協力隊やシニア海外ボランティアという名前について

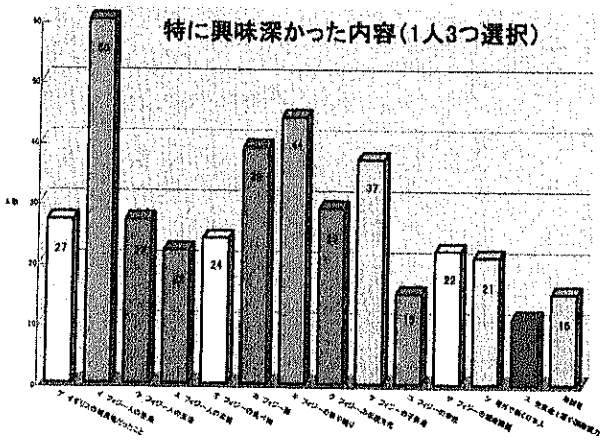


⑧ 青年海外協力隊やシニア海外ボランティアのボランティア活動について



⑨ 発展途上国や国際協力について



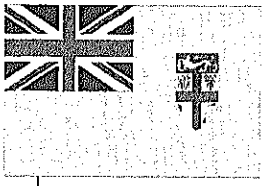


〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

・『'08 '09 地球の歩き方　フィジー　サモア　トンガ　ツバル　ニウエ　ウォリス&フトゥナ』改訂第14版
（ダイヤモンド社　ダイヤモンド・ビッグ社）2008年5月30日
・『きみにもできる国際交流⑬　フィジー・トンガ・サモア』
（中西輝政／総監修　こどもくらぶ／編・著　　偕成社）2000年3月
・『フィジーの魔法』（飯田裕子×山口由美　　千早書房）2007年10月10日
・『マングローブ入門』（中村武久・中須賀常雄　めこん）1998年4月1日
・『みんなの地球「環境問題がよくわかる本」』改訂増補版
（浦野紘平　著　オーム社／出版局）1992年
・『13歳からの「環境問題」入門　地球の病気を治すのは誰ですか？』
（武蔵工業大学名誉教授　工学博士　吉田　祐夫　著／戸部　昇　協力　かんき出版）2005年
・フィジー語テキスト『NA　VITI』　EA72907　DUA
・「フィジー政府観光局」＜ http://www.bulafiji-jp.com/index.html ＞
・「財団法人オイスカ」＜ http://www.oisca.org/support/more/video.html ＞
・DVD『海辺に育つ未来の森～「子供の森」計画親善大使　赤井英和のフィジー植林記～』（オイスカ）
・DVD『民族と文化の十字路　フィジー』（2008年7月31日BS放送）

〔6〕使用教材（授業で使用したワークシートなど）

＜写真＞
参照：〔3〕詳細説明＜使用した写真の一部＞
＜説明用キーワード用紙＞
JICA：独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency）・
青年海外協力隊・シニア海外ボランティア・教師海外研修・BULA・ビチレブ島・バヌアレブ島
＜ＤＶＤ＞
珊瑚礁の楽園　フィジー（2008年7月24日BS放送）・太田幸子隊員インタビュー
＜音楽＞
BULAソング・イサレイ　他
＜ハンドアウト＞
フィジー概要・イサレイ歌詞・フィジー語で言ってみよう♪　（※下記参照）
＜その他＞
衣装（スル・ブラシャツ）・世界地図・フィジー地図（スル）・フィジー国旗・イサレイ歌詞（壁掛け）
お土産（ブラベア・タノア・タパクロス地のカバン・ココナッツボディオイル・ココナッツソープ・
砂糖・貝殻のアクセサリー）



知ることから始めよう、世界を

Fiji Islands

辻山 登紀子
東京都日野市立三沢中学校

●担当教科：数学
●実践教科：総合的な学習の時間
●時 間 数：3時間
●対象生徒：中学2年生
●対象人数：285名

〔1〕授業実践のテーマ・目的

「知ることから始めよう、世界を」

生徒だけでなく、私自身も知らなかったことを知ることは、視野を広げるだけでなく、相互理解、国際理解の上でとても大切なことである。授業において、私自身が見てきたものや経験したことを生徒に伝えることで、生徒一人ひとり受け取り方は様々ではあるが、世界に目を向けるきっかけとなることを目的とした。また、教員としてではなく一人の人間として、私自身が感じたこと、学んだことを伝えたい。

〔2〕授業の構成

<教科名：総合的な学習の時間>

①時限 ②テーマ ③ねらい	方法・内容	使用教材
①1時限目 ②フィジーという国知っていますか？ ③クイズを通して異文化に触れる	フィジーの位置や歴史、生活の様子、言語、研修中に私自身が疑問に思ったことなどをクイズ形式にしたワークシートを作成し、取り組ませた	ワークシート
<児童・生徒の反応>	フィジーという国名を聞いたことのある生徒は若干いたが、ほとんどの生徒が、どの辺に位置しているのかすら知らなかった。しかし、問題には意欲的に楽しく取り組んでいた。後日、生徒からはフィジーについて調べたという話しを聴いた。また、なぜ私がフィジーに行ったのかを興味深く聴いてくる生徒もいた。	
①2～3時限目 ②フィジーを知る ③クイズの解説 （研修報告その1）	クイズの解説を中心に、フィジーでの研修報告を行った。その際、本校で今まで教師海外研修に参加された2名の先生方の研修報告にも触れ、それぞれが振り返る時間を設けた。そして、フィジーの国の概要から始まり、民族構成、衣装、食文化、交流授業を行った小学校の様子について話をした。	スクリーン・PC・プロジェクター フィジーの衣装・研修中のフィジーでの様子を収めたDVD
<児童・生徒の反応>	私の質問に積極的に答えてくれるだけでなく、生徒からも写真について質問が出てきた。 衣装の紹介では数名の生徒にモデルになってもらったが、とても興味深く見ていた。セブセブ（儀式）の様子、小学校での子どもたちの様子を収めたDVDを流すと、明るい雰囲気に自分たちと近いものを感じている生徒もいたようだ。	

〔3〕詳細説明

クイズ形式のワークシート作成にあたっては、予備知識のない生徒がほとんどであることを想定し、考える問題というよりも楽しく解ける問題になるように工夫した。フィジーの言葉はこれまで触れたことのない全く知らない言葉なので、作成の段階で問題としてどうか…と悩んだが、私の地元である長崎の方言や、以前住んでいた佐賀の方言を選択肢の中に入れることで解答の際の生徒の反応を見たいと思い、試みた。生徒

にとっては方言も聞いたことのない言葉なので、解答の際には、反応が大きく、フィジー語や長崎の方言が飛び交った。体験談は、交流授業を行った学校でのことやホームステイ先でのことなど、今後の授業との関連性を考えながら作成した。解答後、ホームステイ先のホストファミリーが来なかったことを興味深く聞いてくる生徒がいた。また、セブセブの儀式に関する問題については、どんな儀式なのか、生徒の興味を引くような問題作りが大切であると、以前教師海外研修に参加された先生にアドバイスいただき、作成した。問題作成を進める中で、生徒自身が想像を働かせたり、どんな国なのかと関心を持つような問題作りが大切であると学んだ。

２時間目の授業では、１時間目のクイズに沿って、フィジーの紹介を行った。始める前に、昨年の総合的な学習の時間について簡単に振り返りを行った。２名の先生方がどこの国に行ったのか、という質問から始めた。すぐに正解が出てこなかったりもしたが、国旗を見せることで、一生懸命答えようとする姿勢が見えた。現地で撮った写真を使い、国の概要や生活の様子などを紹介した。フィジーの伝統衣装ともいえる「ブラシャツ（伝統衣装）」や「スル（腰巻）」を数名の生徒をモデルに紹介したところ、いろいろな反応があったが「スルの下には何も身に付けないのか」という質問が多かった。写真や資料を使っての紹介だけでなく、現地での交流授業での様子を収めたＤＶＤを流すことによって、中には身近に感じた生徒もいたようだ。学年の先生から、ＤＶＤの中で楽しそうに歌っている子どもを見て、自分のようだと授業後話していた生徒がいたと聞いた。他の研修参加メンバーである清瀬高校の羽生先生のおかげで、写真や言葉だけでは伝わらない部分を動画で伝えられた。この２時間で、フィジーについての大まかな紹介を終えたが、まだまだ伝えきれていないことも多く、それらをどのように伝えていくかが今後の課題であると感じている。最終的には、私自身が課題であると感じた「コミュニケーション」について、思い出深い写真を使って授業を行いたいと考えている。

〔4〕成果と課題

昨年は班ごとに世界の国々のガイドマップ作成や、韓国人、中国人の留学生との交流を通して、様々な国の文化や歴史に触れるとともに、教師海外研修を経験された２名の先生方による、スリランカ、タイの研修報告や、元青年海外協力隊員の方からジンバブエについての講話を聴くことで、さらに世界とのつながりを身近に感じることができた。昨年の流れから、現２年生はすんなり授業に入ることが出来た。しかし私自身の授業の準備において、昨年学んだことを生徒一人ひとりが振り返る時間を設けるという点で、不十分であった。「世界を知る」という視点で授業を組み立ててみたものの、これまでとの「つながり」という部分が欠けてしまい、目的が曖昧な単なるフィジーの紹介となってしまったように思う。今後の課題としては、フィジーの紹介を継続して行うとともに、私自身の経験から伝えたい「コミュニケーションの大切さ」についての授業を組み立てていきたいと考えている。

〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

外務省ＨＰ、各国地域情勢　大洋州　フィジー　＜http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/fiji/index.html＞

現地で撮った写真

（6）使用教材（授業で使用したワークシートなど）

添付資料参照

クイズ「フィジーに行きました ～つーじーの旅～」

2年＿＿組＿＿番 名前（　　）

1. フィジーという国を知っている。聞いたことがある。　はい　・　いいえ

それではクイズに挑戦！まずはフィジーの基礎知識！！ジャジャン！！！

2. フィジーの正式名称は？
①フィジー　②フィジー諸島共和国　③フィジー共和国

3. フィジーは地球のどの辺りに位置する国？
①北半球　②赤道直下　③南半球

4. では、日本が夏の頃、フィジーの季節は？
①おそらく春　②同じく夏　③いやいや冬でしょ

5. では では、日本との時差はどのくらいかわかるかな？
①日本より＋3時間　②日本より－3時間　③日本より1日遅んでいる

6. フィジーは昔、どの国の領土だった？
①イギリス　②アメリカ　③オーストラリア

7. フィジーの民族構成、フィジー人の次に多いのは？
①日本人　②インド人　③オーストラリア人

8. 最近のフィジーに関する話題は次のどれ？
①温暖化による海面上昇　②世界遺産に登録された　③学校で給食始まる

どうかな？フィジークイズはまだまだあるよ！
続いてはフィジー語についてだよ！ジャジャン！！

9.「こんにちは」は？
①アロハ　②オス　③ブラ

10. では、「さようなら」は？
①モゼ　②バーイ　③ソイキンタ

11.「食べる」は？
①マナ　②マナカナ　③カナ

12.「Yes」は次のうちどれ？
①イオ　②イヤ　③オイ

13.「ありがとう」は？
①イナカ　②ビナカ　③ドウモ

14. フィジー語で「センガナレンガ」は「問題ないさ」という意味です。
これと同じ意味でないのは次のどれでしょう？
①バクナマタタ　②ナンクルナイサ　③アッテコト

まだまだまだまだあるよー！続いては、フィジーの生活の様子から！ジャジャン！！

15. つーじーがフィジーについて、まず1番に感動したことは？
①海の青さ　②空の青さ　③フィジー料理

16. 私、つーじーの生まれた長崎県平戸市とフィジーとの共通点は？
①信号がほとんどない　②人がほとんど歩いていない　③革がないと不便

17. フィジーの人が結婚式やお客さんが来た時など、喜ばしい時に行う儀式は次のうち、
どれでしょう。
①ひたすらある飲み物を飲む　②ある飲み物を頭からかけ合う　③ある飲み物の早飲み競争

18. 儀式の時に飲む「ある飲み物」…そのお味は？
①とにかく甘～い！　②うぇっ…苦い　③火をふく辛さ

19. では「ある飲み物」、その効用は？
①笑いが止まらない　②だんだんテンションが下がる　③ひたすら眠く

20.「ある飲み物」の名前は？

①ブタ　②カバ　③サル

21. ではでは、その儀式の名前は？

①セブセブ　②ラブラブ　③ガブガブ

22. その儀式は、普はどんなときに行われていた？

①お祝いのとき　②戦いの後　③お正式のとき

23. フィジーで大人気のスポーツは？

①野球　②サッカー　③ラグビー

24. フィジーで1番有名な鳥は？

①カラス　②マイナーバード　③メジャーバード

25. ある日本人歌手が「フィジーにおいて」という曲を歌っています。わかるかな？

①Nexus　②加山雄三　③松田聖子

26. フィジー人の主食は？

①いも　②米　③魚

27. フィジーの伝統的な料理とは次のどれ？

①高温に熱した石による蒸し料理　②とにかくすべて激辛料理　③豚の丸焼き

28. その伝統的な料理の名前は？

①ボロ　②ロボ　③ロゴ

29. フィジーの小学校、中学校、高校の服装について正しいのは次のうちどれ？

①みんな制服　②みんな私服　③行事のときだけドレスアップ

30. フィジーの学校で必ず朝10時半に行うこととは？

①ラジオ体操　②モーニングティー　③歯磨き

31. 訪問した小学校でつーじーが驚いたことがあります。それは次のうちどれ？

①子どもが掃除をする　②子どもが遅刻をする　③子どもが授業をする

32. これまた訪問した小学校で子どもたちが知っていた日本の遊びとは？

①あやとり　②おちゃらかほい　③折り紙

33. 体育・音楽・図工が合体したものを何というでしょう？

①MAC　②PEMAC　③MOS

34. 33の授業の中で、日本から届いた物を使用していました。それは次のうちどれ？

①縦笛ハーモニカ　②野球用のバット　③絵の具

35. フィジーの人の性格を表す言葉。

①寛容　②怒りっぽい　③せっかち

36. ホームステイ先のホストファミリーを終つーじーに起こった悲劇とは？

①ホストファミリーが来なかった　②風邪を引いて予定が一日すれた

③お土産を日本に忘れた

37. フィジーでのホームステイでつーじーが驚いたことは何でしょう？

①水シャワー　②ご飯を手で食べる　③トイレが家の外にある

38. さて、37問目までで問題の中に「つーじー」は何回出てきた？

①3回　②5回　③8回

39. フィジーが「世界一の○○」と称されているものとは？

①フィジーリーブ　②フィジーウォーター　③フィジーカレー

40. つーじーはフィジー滞在中に、あることが理由で落ち込みました。それは何？

①日本食がない　②英語がしゃべれない　③ホームシック

ビナカバカレブ～♪

JICA地球ひろば

学校・教員のための事業紹介

http://www.jica.go.jp/hiroba/index.html

✿JICA 地球ひろば訪問

修学旅行や
社会科見学等で、
ぜひご利用ください！

入館無料！プログラム参加は「要予約」

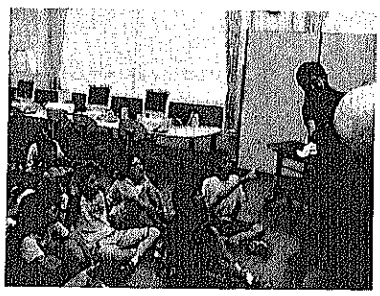
プログラム例（120 分）プログラム時間についてはご相談ください。

時間	内容／活動
40 分	• 館内見学 • 探検シートをもとに館内を見学 • 展示物を通して世界の諸問題の現状を知る
20 分	• JICA や日本の国際協力事業の説明 地球案内人とともに探検シートを記入して、国際協力についての理解を深める。 • 質疑応答
50 分	• 現地体験談(青年海外協力隊等)またはワークショップ ◦ 現地語を体験してみよう！ ◦ 現地での生活の体験談を聞いてみよう！ ◦ 子どもたちの生活について質問しよう！
10 分	• アンケート記入

スペシャルオプション
「食を通して世界を知る」

異国情緒あふれる空間で途上国の珍しい料理を試してみませんか？手でカレーを味わうもよし、食材から世界とのつながりを実感するのもよし、食を通じて異文化にふれることができます。団体用ビュッフェ　1500 円～。
ご予約はカフェ・フロンティア（03-3400-5533）まで！

✿国際協力出前講座



開発途上国の実情や日本との関係、日本の国際協力について、「青年海外協力隊」や「シニア海外ボランティア」経験者を講師として派遣しています。

2007 年度は、全国で約 2,400 件、23 万人ほどが受講しました。

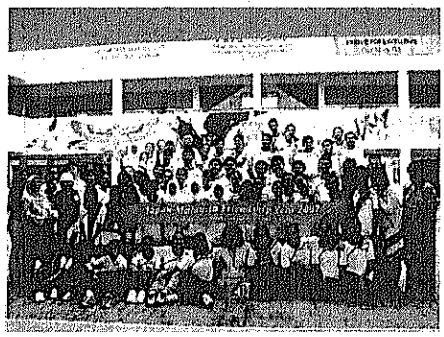
～各校のテーマに合わせた講座内容を組み立てます～

- ✎開発途上国の文化や生活を知る
- ✎開発途上国の暮らしから自分たちの生活を見つめる
- ✎国際協力を通じて自分の生き方を考える

環境、命、人権、
進路、多文化共生、
食育、スポーツ・・・

✿国際協力エッセイコンテスト（中学生・高校生）

次世代を担う中・高校生を対象に、開発途上国の現状と国際協力の必要性について理解を深め、国際社会の中で日本は何をすべきか、自分たちがどう行動すべきかについて考えてもらうことを目的として実施しています。
上位入賞者は、夏休みに、研修旅行に招待します。
参加賞・各種賞を用意しています。ぜひご応募下さい！
2008 年度は、約 75,000 人が応募しています。



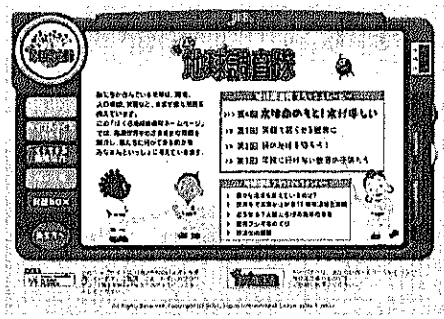
2007 年 7 月マレーシア研修旅行

【募集期間】６月～９月中旬
【結果発表】翌年１月中旬

平成 20 年度募集テーマ
地球と生きる
～地球に暮らす一員としてできること、考えること～
友だちや家族と話したこと、学校で習ったこと、本や新聞、テレビを通じで感じたこと、自分の体験・発見から最近知ったこと。題材は自由です。

✿開発教育のための教材

✎ホームページ「ぼくら地球調査隊」
水問題、砂漠化、人口増加、環境など地球規模の問題をアニメーションを使ってわかりやすく解説しています。
http://www.jica.go.jp/kids/pages/index.html

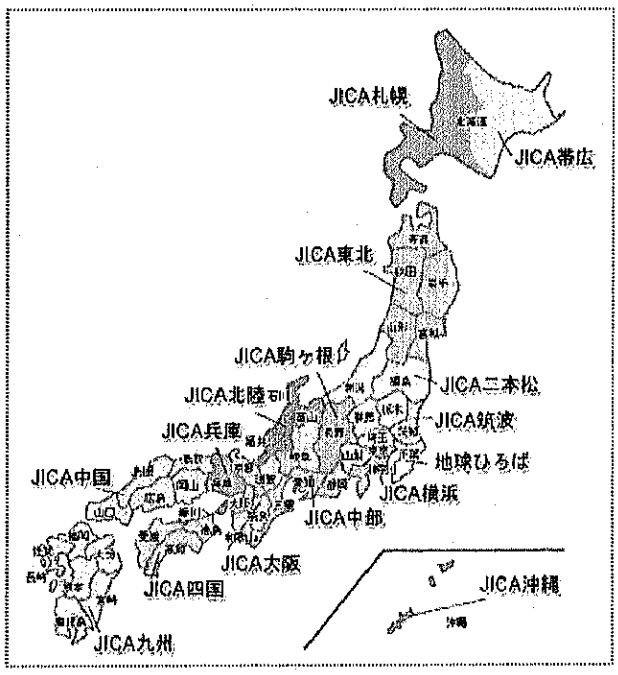


✿教員のための研修

学校の先生方を対象に、国際理解教育や環境教育の担い手育成を目的とした研修を全国各地で実施しています。教材の作成と活用方法、参加型学習の手法を取り上げて、実践的な研修を行っています。

詳しくはお近くの JICA デスクに
お問合せください。

http://www.jica.go.jp/hiroba/madoguchi/index.html



平成 20 年度教師海外研修
授業実践報告書集

JICA 地球ひろば
〒 150-0012 東京都渋谷区広尾 4 - 2 - 24
URL：http://www.jica.go.jp/hiroba/index.html